第4回 共融型・合致溶融型状態図

1. 共融型状態図の読み方

図4.1に**共融型状態図**を示す。その特徴は、以下の通りである。

成分AおよびBの**融点**は、 T_A および T_B である。

境界線 T_A -eおよび T_B -eは**液相線**であり、全率固溶体型状態図で見られた固相線は、それぞれ成分AおよびBの組成線に一致したと考えればよい。

点eは**共融点**といい、液相Lと固相AおよびBの3相が共存する不変点（自由度0の状態）である。

温度 T_e のことを**共融温度**、組成 x_e のことを**共融組成**と言う。

著作権の侵害を避けるため、図4.1は掲載しません。

図4.1 共融型状態図

基本的な考え方

前回の**全率固溶型状態図が読めれば**、他の状態図はすべて読めるはずである。対象としている点（組成と温度で決まる状態）が**どの領域にあるか**を、まず、見出す。

共存する相の量的関係は**てこの原理**から計算できる。

本著作の著作権を保護するために、以下のページを省略します。